

## 蒲生干潟の植物③⑥

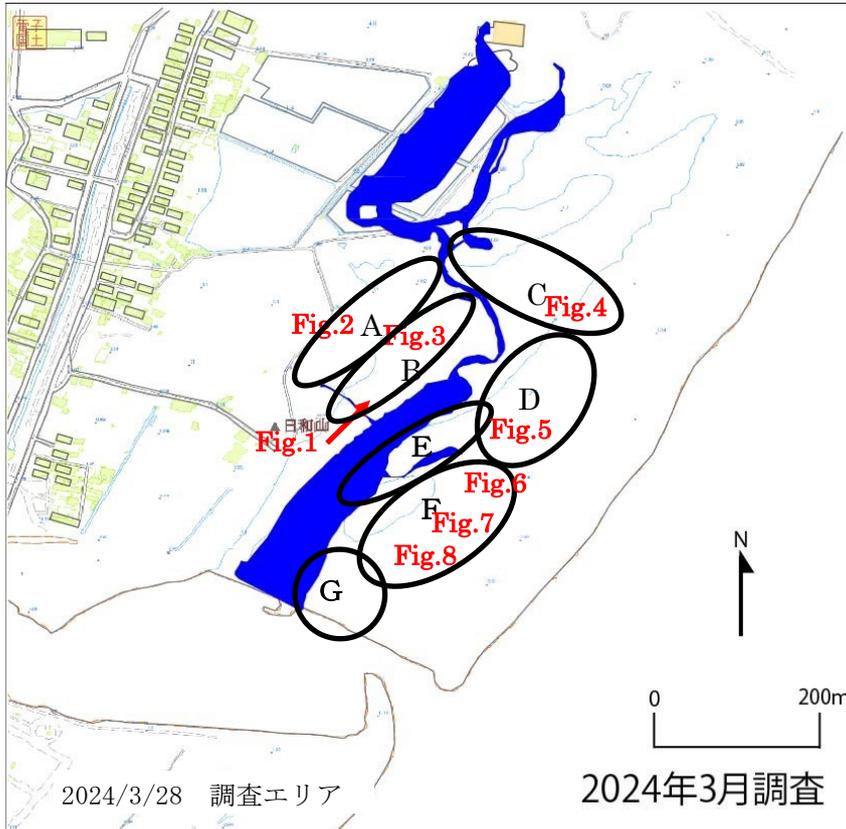


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアCで撮影



Fig.5 エリアDで撮影



Fig.6 エリアFで撮影



Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2024年3月28日（木）9:45～11:00，天気：晴れ

水は比較的少ない時間帯であった。エリアB全体が茶色のままで、ハママツナはほとんど目立たない(Fig.1)。エリアAのヨシは、今年も3月には出てこなかった例年よりも気温が高い日が多かったがそこまで影響はなかったと思われる(Fig.2)。エリアBのハママツナは、1cmほどの新芽が出始めていた(Fig.3)。エリアCのシオクグは、15cmほど新しい個体が出ていた。エリアAのシオクグは出ていなかったため、エリアで差があるようだ(Fig.4)。エリアDに点在するハマニンニクの新しい葉も15～20cmほどまで成長していた(Fig.5)。エリアFで見つかった4個体目のマツは、幹が細く葉先も茶色い(Fig.6)。今後も注視したい。また、エリアFでは、ハマエンドウやウンランの葉も見られた。ハマヒルガオはまだ確認できていない(Fig.7)(Fig.8)。写真にはないが、ハマニガナの葉も出始めていたので、これから徐々に新しい葉が出てくるものと思われる。

(宮崎佳彦)